

# 令和3年度 さいたま市立常盤小学校 学校関係者評価書

さいたま市立常盤小学校

学校関係者評価委員長 速川 芙佐子 印

## 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数  
8人
- (2) 実施回数  
3回

## 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- (1) 学校の中で教職員の研修が充実していることはとても良いと感じる。そのような職場環境は若い先生方が成長できると感じる。若く経験の浅い教員の割合が増加していることから、「現場で育てる」体制をこれからも継続してほしい。コロナ禍においても子どもたちの学びの場が確保されていることが大切である。コロナ禍をきっかけに勉強が苦手になったり、学習内容を取りこぼしたりすることがないように支援してほしい。
- (2) 夢や希望、目標をもって生活している児童が多いことは、子どもたちが学校に楽しく通っており、充実しているからだと感じる。「自己実現を図る力」をはぐくむための根底として、挨拶や返事がしっかりできる子どもを育てていきたい。コロナ禍によって、長い家庭時間を過ごす中で、困っている児童や支援の必要な保護者が増えている現状もある。学校も視野を広げ、必要に応じて支援が受けられるように相談に乗り、外部につなげるとよい。
- (3) 感染症対策を行いながら、学校の学びの場が確保されたことが大切である。健康に留意して安全に生活するために、文科省や市教委、医療専門家の指導を得ながら、感染予防対策をしっかり行い、充実した生活が送れるとよい。子どもたちが心身ともに健康であってほしい。
- (4) 学校の様々な行事が中止となり、地域のイベントも実施できなくなってしまった。子どもたちが活躍する場や地域と交流する場が減ってしまっている。学校と地域の大人が協力して知恵を絞り、工夫しながら、活動や交流ができるようにすることが必要である。

## 学校関係者評価を受けた学校の対応

- (1) 子どもたちの学習状況を丁寧に見取るなど、学年を基盤とし、誰一人取りこぼすことのない学習指導の充実を図る。来年度は、学校課題研究やGIGAスクール構想の推進によって、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業改善に取り組んでいく。
- (2) 引き続き、児童一人ひとりを大切に育て、自己実現が図れるよう支援していきたい。いじめや不登校の問題、各家庭の抱える諸課題に対しても管理職、生徒指導・教育相談・特別支援教育部、学年を中心とした組織で対応していく。校内における生徒指導・教育相談体制を強化し、保護者や関係機関と積極的かつ密に連携していく。
- (3) 今後も感染症拡大防止対策を十分に取りながら、体育朝会や外遊び等を実施するとともに、運動会や縦割りグループによる取組などを行っていきたい。
- (4) 来年度から実施される学校運営協議会において地域との連携を図り、学校、保護者、地域が一体となって子どもたちの成長を支援していきたい。

さいたま市立常盤小学校長 三島 公夫 印